

帰還困難区域における 脱炭素事業化検討WG

2026年2月17日

WG事務局:株式会社奥村組

【帰還困難区域における脱炭素事業化検討WG】

帰還困難区域の土地を活かした
脱炭素型地域再生と共創の実践

帰還困WGの活動について(1/4)

WG承認年月

2023年9月

参加団体・個人

※敬称略、50音順(2026年1月現在18団体)

- 一般財団法人 日本みち研究所(事務局)
- 株式会社奥村組(事務局)
- アジア航測株式会社
- 株式会社 エックス都市研究所
- 株式会社 大林組
- 大林道路株式会社
- 共栄株式会社
- 株式会社 熊谷組
- 一般社団法人 高純度バイオディーゼル燃料事業者連合会
- 大成建設株式会社
- 東京産業株式会社
- 株式会社 東邦銀行
- 株式会社 ドローン技術研究所
- 西尾レントオール株式会社
- 西松建設株式会社
- パシフィックコンサルタンツ株式会社 東北支社福島事業所
- 福島エコクリート株式会社
- 宮城大学

帰還困WGの活動について(2/4)

活動経緯(概要)

- 2023年9月 キックオフ、顔合わせ @大熊インキュベーションセンター

その後、中間貯蔵施設等の帰還困難区域の現地視察を含めて、WGを重ねる



【活動①】 帰還困難区域の土地を活用した構想の概要；

地域の将来像も見据え、単なる除染後の土地利用に留まらない長期的視点の計画づくり及び官民共創の在り方の検討を行っています。

【活動②】 サッカー大会支援による地域イメージ向上；

建設現場での安全大会・健康管理(ラジオ体操)の一環として、現地でフットサルイベントを実施。浜通り地域で開催予定の高校サッカー大会(インターハイ)を支援し、地元女子サッカーチームや自治体・メディアとも連携。

「安心して活用できる場所」として住民に感じてもらえるよう、スポーツを通じた地域のポジティブなイメージ醸成の案を検討しています。

帰還困WGの活動について(3/4)

活動経緯(概要)

【活動③】 空間スケージング分析と土地特性評価；

中間貯蔵施設エリアを区域ごとに分析し、土地特性評価として、線量が低く利用可能なエリアと雑木林エリアを識別。

【活動④】 民間JVとの連携方策の検討；

中貯施設内で現在進行中の除去土壌埋立工事(元受けJV等⇔関係者との要調整)と連携。
元請けJVの持つ技術やリソースと地域ニーズをマッチングさせ、安全かつ効果的に脱炭素型地域モデルの共創事例として検討しています。

帰還困WGの活動について(4/4)

活動結果
および
今後の予定
(事務局案)

帰還困難区域における今後の事業活動等に向けて、以下のような点について検討していく考えです。

(検討テーマ案)

- 路面太陽光発電の導入やEV利活用の促進などの脱炭素インフラの提案
- 海外の事例を参考にした地域振興策の検討
- 地域の暮らしと産業を支える土地の利活用の中長期的視点での検討